

## 〈研究ノート〉

敗戦直後の暫定『初等科地理(上)・  
(下)』教科書について

寺 本 潔\*

## 1. はじめに

敗戦直後、昭和21年5月20、及び25日に文部省著作の地理教科書が発行された。暫定『初等科地理(上)・(下)』教科書の2冊がそれである<sup>1)</sup>。2冊とはいっても、この教科書の装丁は新聞紙大(縦42×横62cm)の紙1枚の両面に印刷されたものを8つ折りにしただけの粗末なものであった<sup>2)</sup>。

暫定『初等科地理(上)・(下)』の初版本は、戦時中の昭和18年に発行された国民学校の教科書『初等科地理(上)・(下)』である。国家主義的性格の強い国民科という教科において使用された教科書であったため、その内容に軍国主義的観点からの記述が多くみられた<sup>3)</sup>。しかし、一方で『初等科地理(上)・(下)』の記述内容は、地域区分の仕方や重点的な地域の取り扱い方、文学的表現、歴史性の重視といった点で、極めて地理学的かつ近代的な側面も有していた<sup>4)</sup>。

本稿では、こうした戦時中に作成された『初等科地理(上)・(下)』教科書が、敗戦という契機を経て新たに暫定的な使用ではあるにせよ、戦後再び文部省の手で発行された事実を指摘し、とりわけ記述内容の点で暫定『初等科地理(上)・(下)』教科書が、どのような修正(省略や削除)を施されたものであったかについて具体的に検討したい。

## 2. 暫定『初等科地理(上)・(下)』の構成と内容

## (1) 構成について

暫定『初等科地理(上)・(下)』教科書(以下、「暫定教科書」と略記する。)の目次を昭和18年発行の『初等科地理(上)・(下)』教科書(以下、「旧教科書」と略記する。)のそれと比較対照して示したのが、次頁の表である。上巻・下巻とも最も大きな差異は、頁数の違いであろう。この点について詳細には(2)の内容の項で述べるが、おそらく敗戦に伴う文部省や占領軍総司令部からの強い指示<sup>5)</sup>による記述内容の大幅な省略や削除と終戦直後の紙不足という物理的な理由が、暫定教科書の頁数の少なさに影響していると思われる。

例えば、暫定教科書の上巻においては、旧教科書中の「11. 朝鮮と関東州」及び「12. 台湾と

\* 愛知教育大学

表 1. 暫定『初等科地理』（昭 21）と『初等科地理』（昭 18）の目次と頁数

	昭和21年発行暫定『初等科地理』（頁数）	昭和18年発行『初等科地理』（頁数）
上 卷 (第5学年用)	1. 日本…………… 1	1. 日本の地図…………… 1～8
	2. 本州・四国・九州…………… 1～5	2. 本州・四国・九州…………… 9～18
	3. 帝都のある関東平野…………… 5～11	3. 帝都のある関東平野…………… 19～37
	4. 東京から神戸まで…………… 11～13	4. 東京から神戸まで…………… 38～65
	5. 神戸から下関まで…………… 以下記	5. 神戸から下関まで…………… 66～78
	6. 九州とその島々…………… 載なし	6. 九州とその島々…………… 79～91
	7. 北陸と山陰……………	7. 北陸と山陰…………… 92～101
	8. 中央の高地……………	8. 中央の高地…………… 102～107
	9. 東京から青森まで……………	9. 東京から青森まで…………… 108～118
	10. 北海道……………	10. 北海道と樺太…………… 119～131
下 卷 (第6学年用)	1. 世界の陸地と海洋…………… 1～2	11. 朝鮮と関東州…………… 132～144
	2. アジア…………… 2～4	12. 台湾と南洋群島…………… 145～156
	(1) 朝鮮…………… 4～7	1. 大東亜…………… 1～9
	(2) 支那…………… 7～13	2. 昭南島とマライ半島…………… 10～15
	(3) インド支那…………… 以下記	3. 東インドの島々…………… 16～30
	(4) マレー諸島…………… 載なし	4. フィリピンの島々…………… 31～36
	(5) インド……………	5. 満州…………… 37～52
	(6) 西アジアと中アジア……………	6. 蒙疆…………… 53～56
	(7) シベリア……………	7. 支那…………… 57～84
	3. 大洋州……………	8. インド支那…………… 85～98
	(1) 太平洋の島々……………	9. インドとインド洋…………… 99～111
	(2) 濠州……………	10. 西アジアと中アジア…………… 112～118
(3) ニュージーランド……………	11. シベリア…………… 119～125	
4. 北アメリカ……………	12. 太平洋とその島々…………… 126～147	
(1) アメリカ合衆国(米国)……………		
(2) カナダとその他……………		
5. 南アメリカ……………		
6. ヨーロッパ……………		
(1) イギリス(英国)……………		
(2) ロシヤ(ソビエト連邦)……………		
(3) フランス……………		
(4) その他の主な国々……………		
7. アフリカ……………		

南洋群島」の章が欠落し、それらは下巻に移っている。さらに暫定教科書では、実際に記述されているのは「1. 日本」から「4. 東京から神戸まで」（具体的には名古屋付近の地誌的記述で終わっている）までの一部分で、まさに「暫定」に過ぎない扱い方であった。しかしながら、章立てにみられる構成の面で、旧教科書が採用していた独特な日本の地域区分の仕方をそのまま暫定教科書も踏襲しようとした点は付記されるべき事実であろう。

下巻についても同様で、旧教科書の「1. 大東亜」から「6. 蒙疆」までの旧植民地や大東亜共栄圏の国々に関する記述は全て削除された。実際の記述も2.(2)「支那」までで終わり、暫定的扱いがここにも表れている。しかし、注目すべき差異として、旧教科書の構成には全くみられない、南北アメリカやヨーロッパ、アフリカなどの世界地誌教材が暫定教科書の目次に明確に記載されている事実があげられよう。旧教科書において学習領域が大東亜周辺でとどまっていたのに対し、暫定教科書では米ソ英仏などの国名を特記しつつ、全世界を広く学習させようと思図していたのかもしれない。しかし、実際の記述は全くなされていない。

## (2) 内容について

具体的な記述内容の違いに着目すれば、暫定教科書の特色は次の3点にまとめられる。

第1に、基本的には旧教科書の記述内容を受けついで形だが、軍国主義的色彩の強い表現や神社・史蹟に関する教材、あるいは旧日本統治地域に関わる内容等は、訂正もしくは省略・削除されているという点である。例えば、上巻の「1. 日本」の章では、旧教科書の「1. 日本の地図」の記述と全く異なり、全文が書き換えられている。旧教科書中にみられた「日本列島は(中略)アジア大陸の前面に立って、太平洋へ向かってををしく進むすがた」をしているとか、大東亜の中で日本が軍事上すぐれた位置を占めている、というような内容の記述は全て削除され、代わりに極めて客観的に日本の地理的位置について述べてある。また、「3. 帝都のある関東平野」の中の「東京とその附近」では、「靖国神社」や「大正天皇の御陵」に関する記述が削除されていた。「4. 東京から神戸まで」の章でも「桶狭間」や「関ヶ原」という古戦場についての記述がなくなっていた。下巻においても同様で「1. 世界の陸地と海洋」の章は全文が新たに書き換えられており、「2. アジア」の記述も一部要約されたり、新たに書き加えられたり、削除されたりしている。

第2の特色は、旧教科書には多く使用されていた文学的表現、とりわけ比喻表現や感動的表現がほとんどみられないという点である。

第3に、旧教科書の頁を彩っていた多くの写真や挿絵、すぐれた統計地図などが暫定教科書にはみられないという点があげられる。

いずれにせよ、暫定教科書は敗戦直後の混乱期に記述内容を大幅に変化させつつも、それなりの形で出現した国民科地理の最後の教科書であった。

### 3. おわりに

昭和21年5月に発行された暫定『初等科地理（上）・（下）』教科書は、翌年5月に『学習指導要領社会科編（試案）』が出されるまでのわずか1年足らずの短命であった。しかも、敗戦直後の混乱期にあって、教科書としてどれ程充分に使用されたのか疑問である。記述内容も旧教科書の一部を修正（省略・削除）しただけにとどまらざるを得なかった点で、やはり「暫定」としての役割しか果たせなかったと言えよう。しかし、下巻の構成にみるように、新たに世界地誌教材の導入を構想していた点も認められる。

暫定『初等科地理』は戦後に発行された教科書とはいえ、その構成や内容において社会科につながる面は見い出せなかった。国民科地理最後の教科書として地理教育史上、記録しておくべきであろう。

#### — 注 —

- 1) これは、「文部省によって編纂され連合軍最高司令部の承認を経た教科書のみが用ひられるといふ条件で、国定若しくは文部省検定の教科書を使用する官公私立を含む総ての教育施設に於て、地理科の授業を再開することを許可する。」（昭和21年6月29日連合軍総司令部発）という指令に応ずるよう編纂されたものであり、奥付には「Approved by Ministry of Education (Date ——)」と付記してあった。検討には愛知教育大学図書館所蔵本を使用した。
- 2) 当時この教科書を使用した方からの聴き取りによれば、折り目を切断し頁ごと揃えた上で、厚紙の表紙をつけて綴じるよう指示されたという。
- 3) 木本 力(1969):地理教育からみた戦争責任, 歴史地理教育/6158, pp.37~41。
- 4) 寺本 潔(1981):国民科地理に関する一考察 — 初等科地理(上)・(下)を中心にして —, 新地理第29巻第2号, pp.25~35。
- 5) 終戦後、いち早く文部省は、「終戦ニ伴フ教科用図書取扱方ニ関スル件」(昭和20年9月20日)を通知し、その中で省略・削除または取り扱い上注意すべき教科の基準として、次の5点をあげた。(イ) 国防軍備等ヲ強調セル教材, (ロ) 戦意昂揚ニ関スル教材, (ハ) 国際ノ和親ヲ妨グル虞アル教材, (ニ) 戦争終結ニ伴フ現実ノ事態ト著ク遊離シ又ハ今後ニ於ケル児童生徒ノ生活体験ト甚シク遠ザカリ教材トシテノ価値ヲ減損セル教材, (ホ) 其ノ他

承認必謹ノ点ニ鑑ミ適當ナラザル教材。

また、占領軍総司令部も「教師用参考書並ニ教科書ハ之ヲ検閲シソノ中ヨリ凡テノ神道教義ヲ削除スルコト」(昭和20年12月15日発令)などの指示を早くから行っていた。

—参考資料—

尾崎庸四郎(1979): 戦中・戦後地理教育史への証言 — 国定教科書執筆体験を通じて —, 新地理第27巻第1号, pp.1~12。

山住正己(1981): 文部省著作社会科教科書解説 — 社会科教科書の出発 —, 日本図書センター, pp.23。

「戦後日本教育史料集成」編集委員会編(1982): 『戦後日本教育史料集成第一巻』三一書房, pp.526。

ハリー・レイ(1984): 終戦直後の日本における「社会科」創設の背景, 社会科教育研究1652, pp.27~43。